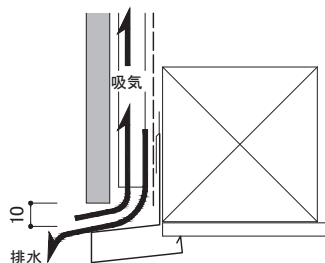


## 2 各部の基本納まり図

### 2-7 オーバーハング部

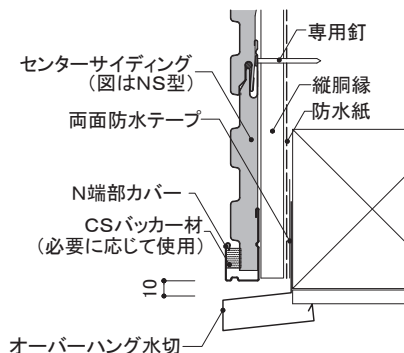
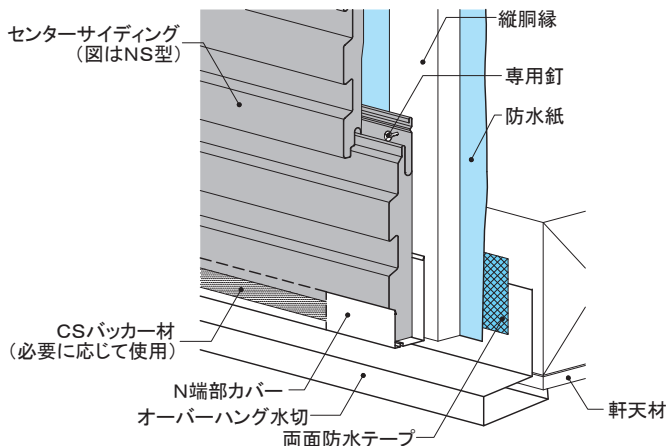
#### 1) 基本納まり

オーバーハング部は外壁通気構法の「吸気」機能、浸入水や結露水などの「排水」機能を発揮するよう施工します。



- オーバーハング部材は水平に十分留意して、木下地の場合は専用釘（ $\phi 2.3\text{mm} \times 38\text{mm}$ ）で500mm以下の間隔で躯体に留め付け、鉄骨下地の場合は専用ビス（P35）を用いて610mm以下の間隔で胴縁に留め付けます。オーバーハング部材を取り付け後、両面防水テープで防水紙を密着させます。
- センターサイディング下端とオーバーハング部材の隙間は必ず10mm確保し、シーリングなどでふさがらないでください。
- 端部カバーの設定がない柄は、芯材を取り除く（縦張り時）か見切縁に水抜き穴（ $\phi 10\text{mm} \times 300\text{mm}$ 間隔）を現場加工し、施工します。

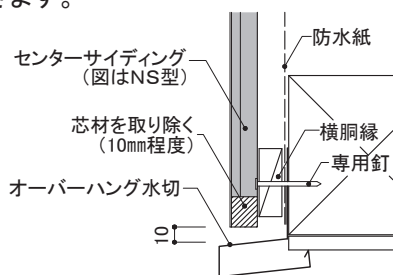
#### ①横張りの場合



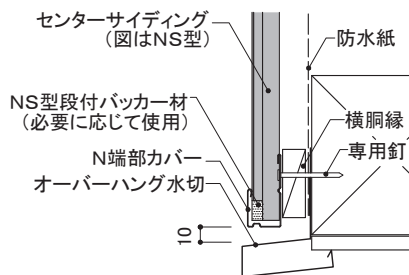
M型、NS型、iシリーズ、ST型、  
F型、FB型、FN型、D型

#### ②縦張りの場合

- 本体の張り始めは、本体のみで施工する仕様と端部カバーなどを使用して施工する仕様があります。
- 本体のみで施工する仕様は切断部が露出します。芯材の吸水防止のため切断部の芯材を10mm程度取り除きます。

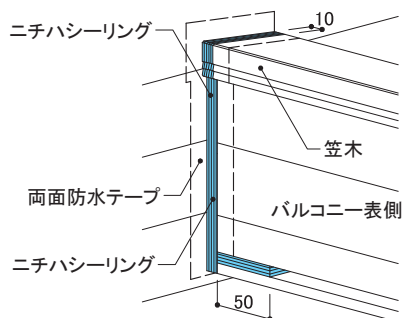


M型、NS型、ST型、  
F型、FB型、FN型、A型



M型、NS型、ST型、  
F型、FB型、FN型、A型

#### <オーバーハング水切と壁面入隅部>



✕

**禁止** 不具合のおそれがある納まり

左図のような納まりは……

①裏面に浸入した雨水や結露水を排出できず、軒天材にシミを作るなどの不具合の原因となります。

②外壁通気の吸気排水経路が確保できません。